２０２６年１１月１５日（日）　聖霊降臨後第２５主日

銀座教会・新島教会主日礼拝　― 子ども祝福・家族礼拝 ―

礼拝招詞　「わたしの名のためにこのような一人の子供を受け入れる者は、
わたしを受け入れるのである。」（マタイによる福音書 18 章 5 節）

主の祈り

交読詩編　「詩編」１３０編５～８節

わたしは主に望みをおき、わたしの魂は望みをおき
御言葉を待ち望みます。
わたしの魂は主を待ち望みます
見張りが朝を待つにもまして
見張りが朝を待つにもまして。
イスラエルよ、主を待ち望め。
慈しみは主のもとに、豊かな贖いも主のもとに。
主は、イスラエルをすべての罪から贖ってくださる。

使徒信条

讃美歌　４６１番（主われを愛す、主は強ければ）

聖　書　『出エジプト記』２０章７節（旧 p. １２６）
あなたの神、主の名をみだりに唱えてはならない。みだりにその名を唱える者を
主は罰せずにはおかれない。

『ローマの信徒への手紙』１０章８～１３節（新 p. ２８８）
10:8 では、何と言われているのだろうか。
「御言葉はあなたの近くにあり、
あなたの口、あなたの心にある。」
これは、わたしたちが宣べ伝えている信仰の言葉なのです。
9 口でイエスは主であると公に言い表し、心で神がイエスを死者の中から復活
させられたと信じるなら、あなたは救われるからです。10 実に、人は心で信じて
義とされ、口で公に言い表して救われるのです。11 聖書にも、「主を信じる者は、
だれも失望することがない」と書いてあります。12 ユダヤ人とギリシア人の区別は
なく、すべての人に同じ主がおられ、御自分を呼び求めるすべての人を豊かに
お恵みになるからです。13 「主の名を呼び求める者はだれでも救われる」のです。

牧会祈祷

天の父なる神さま、あなたの尊い御名をあがめます。み国が来ますように。み心が行われますように。天に於けるように、この地に於いても。今朝も私たちに、多くの子どもたちと共に主の御名を呼ぶ幸いをお与えてくださり、感謝いたします。今日は、大人の方々と御一緒に、教会学校の小さなお友達とご家族が集うています。ありがとうございます。どうぞ、

神さま、この子どもたちがあなたの御言葉によってすくすくと、成長しますように。どんな時代になっても主を愛し、み顔を仰ぎ、礼拝をおささげする時を大切に守ることができますように。ひとりひとりの歩む道を、終わりの日まで神さまが照らしていてください。そして私たちをいつも朝早くから教会に連れてきてくださる保護者の皆さんや、教会で優しく迎えてくださる教会員、CS の先生方のことを御心に留めお守りください。

新島教会をはじめ、伊豆諸島の島々の教会の家族と、伝道所の歩みを今日もお支えくださいますように。寒い日や台風の日にも、兄弟姉妹の健康と安全が守られますように。東支区の兄弟姉妹が今日も、それぞれの植えられた地でみ名をあがめ、祈り合う群れであることが出来ますように。からだや心に重荷を負う友もまた、聖霊なる神さまの御助けによって、あなたの牧場に招かれますように。七日の歩みを振り返りますと、神の造られた善い御業、あなたの言葉を知りながら友や家族に温かな言葉をかけてあげられなかった事を思い、深く懺悔いたします。平和の主の御赦しを乞い、願います。神の平和が、わたしの家族、教会から豊かに広がっていき、社会、そして世界の地の隅々にまで行き渡りますように。救いの歴史を支配しておられる神さま、ことに貧しい者、飢える者、この世で小さくされている者を御恵みください。子育てに勤しむ若い夫婦を慈愛で満たし、顧みてください。

銀座教会の新たな枝として神の家族に加えられる兄弟姉妹を覚えます。これまでの信仰生活や学校生活が、あなたによって豊かに守られた事を感謝いたします。そしてこれからも、洗礼の学びをお支えください。自分の口で、自分の魂に植えられた信仰の言葉を告白する事が出来ますように。聖霊の助けを乞い願います。

イエスさまのお名前によって、お祈りいたします。アーメン。

説　教「み言葉は私の近くに」　　**岩田 真紗美 副牧師**

『出エジプト記』２０章７節

『ローマの信徒への手紙』１０章８～１３節

今年も沢山の子どもたちと一緒に、大人の礼拝のなかで子ども祝福・家族礼拝をおささげ出来ます幸いに感謝いたします。皆さんは、ご家族のことを、何とお呼びしていますか？私は小さい頃、父方の曾祖母のことは「茅ケ崎のひいおばあちゃん」、祖父母のことは「旗の台のおじいちゃん、おばあちゃん」、母方の祖父母のことは「金沢のおじいちゃん、おばあちゃん」と、それぞれの家族が今住んでいる地名を付けて呼んでいました。きょうの旧約聖書に出てくる神さまは、ご自分の名前を心を込めて呼ばない神さまの家族に対して、ちょっと腹を立てておられるようですよ。「みだりに神の名を唱える者に、わたしは罰を与えます」と約束しています。このお約束は、全部で１０ある「十戒」というお約束の３番目の約束です。「あなたの神、主の名前を、みだりに唱えてはならない。」と神さまは、神さまの家族のリーダーであるモーセさんにおっしゃいました。

「みだりに」という言葉は、今はあまり、大人の人たちも使わない言葉です。これは、旧約聖書が書かれたヘブライ語では、大きな物を家の柱にぶつけたり、やかましい音を立てるという意味を表す言葉です。機械的に、何度も何度も心を込めないで「神さま～、神さま～」って呪文のように唱えても、意味ないよ、と神さまはおっしゃいます。意味が無いだけでなく、神さまをそのように無理やり自分たちの近くにお呼びしようとすることを良しとし

ている、昔むかしの異教の宗教の習わしを、神さまはお嫌いだからしないで欲しいとお思いのようです。それでは、神さまの喜ばれることは、どんなことかな？

新約聖書の中には、神さまに喜ばれる働きをしたパウロさんが、教会にこんな手紙を書いています。「では、神さまは旧約聖書の『申命記』という書物のなかで、何と言われているのだろうか？神さまの御言葉は、あなたの近くにある。あなたの口と、あなたの心にある。」と。これは本当にびっくりする教えだね。神さまは、みだりに、何度も何度もやかましく、あの漫画のドラえもんののび太くんのお母さんみたいに「のび太〜、のび太〜」って呼ばなくても、ちゃんと既に私たちの近くにおられて、それはみんなが持っている聖書の御言葉によって既に、私たちの小さな口の中に、そして柔らかな心の中に在る、存在しているのだと、パウロさんは言います。ですから、今日の１１節、という所の御言葉にあるように、「神さまを私の主、と信じている私たちは失望する、つまり希望を失うことはない」のです。神さまがいつも私たちと一緒におられて、聖霊によってどんな時も私たちを助け、新しい命の言葉を私たちの口に与え、心に刻み付けてくださいます。それが、毎週日曜日にこの教会で守られている礼拝の時間です。

きょうは朝からみんなで一緒に讃美歌を歌いました。神さまは、みんなの優しい歌声をとっても喜んで聞いておられます。毎週教会学校の礼拝に出席しているお友達は、今日は神さまの与えてくださった御言葉の中の、十戒の３番目のお約束を聞いていますね、と神さまはみんなのことを高い高い天からご覧になっています。そして、私とお隣りのお友達の間、私と家族の間にも神さまは同時に居て、私たちの存在を心から喜んでくださっています。あとで皆さんは、牧師先生から一人ずつお名前を呼ばれて、「神さまの祝福がありますように」と頭に手を置いてお祈りしていただきます。この手は、神さまに代わってお祈りをする手です。とっても幸せな手です。ぜひ、その時には皆さんも一緒に、自分の手を胸の前で合わせて組んで、アーメンって、お祈りの姿勢をしてください。きっと心の中に、温かい神さまのみ恵みが溢れていくことと、思います。私も、私の子どもも、皆さんのように神さまの祝福を何回もいただいて育ってきました。今も、礼拝の度に、大人になってからもここに集う教会の大人たちは祝福をいただいています。口の中、心の中を神さまの御言葉でいっぱいにして、恵みに満ちてまたここから七日間の生活を始めて、またこの神さまのおうちに帰って来て、一週間の楽しかったことや悲しかったこと、何でもかんでも神さまにお話しする祈りの時を持ちます。

そうやって教会はみんなで一緒に聖書の中から信仰の言葉を聞いて、神さまに心を育てていただく大きな大きな家族です。きょうは子ども祝福・家族礼拝を、沢山の家族と一緒におささげできて本当に嬉しいね。神さまに感謝を込めて、「天のお父様、」と神さまの御名を心を込めてお呼びしてお祈りしましょう。神さまも、みんなのお祈りを喜んで聞いてくださいます。胸の前で手を合わせて祈る時、私たちは今日ここに来られないお友達や家族のことも思い浮かべて、神さまの御言葉によって新しく生きる元気をお与えください、と祈ることも出来ます。お祈りは、神さまと私が静かに名前を呼び合って、「天のお父様、」と御名を呼ぶと「真紗美、どうしたかい？きょうは礼拝に沢山人が集まってよかったねえ、私も嬉しいよ。」と、神さまが答えてくださいます。こんなにすてきな神さまとの会話を私たちはいつも嬉しい時も悲しい時も、聖霊によって交わすことが出来るのです。なぜなら神さまは、私たちに対して、これで完璧！もうこの子は大丈夫！もう何も心配ない！って思うことが無いか

らです。いつも神さまは、私たちの口や心をご覧になっていて、ちゃんとご飯を食べているかな？お菓子だけでお腹いっぱいになっていないかな？お友達にどんな言葉をかけているかな？家族にちゃんと、ただいまって言っているかな？心の中で泣いていないかな？と、心を揺らしていてくださるのです。

私は、皆さんと同じくらいの、小学校に通っている頃にクラスでいつも欠席しているお友達がいました。学校には来ないけれど、彼女は遊びに行くととっても元気で日が暮れるまで私たちはよく遊びました。夕飯も一緒に囲んで、泊まってきていいよと、親に電話でＯＫももらいましたが、夜に日記を書く段階になると、お友達は文字ではなく絵を描いてノートのページを埋めていたのでびっくりしました。薔薇の花を描いたりしていた記憶がありますが、それは昼間の楽しい時間を表していたようです。最後には鉛筆で上から塗ってしまうので、もったいないな・・・と思ったのですが、私はその日記を預かって月曜日にそのまま学校に提出していました。礼拝の時や、帰りのお祈りの会で、クラスのみんながその子のことを祈る時、その祈りの言葉を聞きながら私は、「ああ、みんな病気だと思ってるけど元気だったし、」と一人ひねくれた思いで「アーメン」と唱えていました。きっと今日の十戒の御言葉に照らして言えば、あの時の私は、心の中が自分の言葉でいっぱいで、神さまの御言葉を心からはじき出していた、神の名を「みだりに」唱えていた子どもだったのだと思います。学校からの帰り道、明日はこの学校を退学して、東北のほうの学校に転校する、と言っていた友達と一緒になって、私はつい、あの子のことみんなお祈りしてるけど学校には来ないと思うよ、おうちも楽しそうだったし、と言ってしまいました。そうしたら、明日転校する友達は、「来るようになったら私に手紙で教えてね。きっと、彼女は心の中で泣いてるから」と言ったのです。私は驚きました。自分が心も込めずに神さまに「アーメン、アーメン」って唱えながら、本人の悲しみに耳を寄せないお祈りをしている時に、お友達は、「神さま、あの子は心の中で泣いているから助けてあげてください。」と心の中で祈っていたと言うのです。

同じ学校に通って、同じ神さまを礼拝して、同じ言葉でお祈りしていたつもりでしたが、神さまはすべてをご存知でした。学校に来られない時を一緒に過ごしたお友達は大学を卒業してから、大学院にも進み、学校のカウンセラーとしての仕事を神さまからいただいています。学校に行きたくても行けない子どもの気持ちは本当に、よく分かるから、と言って一生懸命働いています。

神さまは、どんな時も私たちの口に御言葉を与え、私たちの心を神さまを知る祝福で満たし、お友達や家族のことを心から心配して愛するひとりひとりとして育ててくださっています。神さまの御名を、私たちは今になって真剣に呼び、祈る大人にそれぞれがなりましたが小さな罪深い僕であった時も、主は迷い出た一匹の羊として私たちを御手の内に置き、憩わせてくださる恵みの神さまです。この神さまを心から信じて御名を呼び、共に御言葉に養われつつ、教会で愛する子どもたちの成長を祈り続けたいと願います。（祈祷）

讃美歌　５０１番（生命のみことば　たえにくすし）

献　金

頌　栄　５４４番

祝　祷　平和のうちに、この世へと出て行きなさい。主なる神に仕え、隣人を愛し、主なる神を愛し、隣人に仕えなさい。主イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊のしたしき交わりが、ひとりひとりの上にとこしえにありますように。アーメン。